

# 坊っちゃん文学賞 作品募集

令和7年5月1日から9月30日まで

4,000字以内のショートショートを募集

大賞賞金 50万円(1名)、佳作賞金 10万円(5名)

新設の小学生特別賞には図書カード 1万円分(1名)

大賞作品は雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載

「坊っちゃん文学賞」は、市制 100 周年を機に、近代俳句の祖・正岡子規を生み、近代小説の文豪・夏目漱石の小説『坊っちゃん』に描かれた街という、松山市の豊かな文学的土壌を生かして、新しい青春文学の創造と本市の文化的なイメージを高め、全国にPRするため昭和 63 年に創設され、受賞後も活躍を続ける作家や人気作品を生み出してきました。

第 16 回からはショートショートの文学賞としてリニューアルし、第 21 回は、全国 47 都道府県に加えて海外からも作品が寄せられ、8,341 点の応募をいただきました。

また、作品の原文をそのまま用いる「よみ芝居」公演は、多くの皆さんから大変好評で、今年も公演を開催します。ショートショートは、書く楽しさを感じてもらいやすく、世代を問わず参加でき、文学の間口を広げる力があります。俳句と同じく短いことばで表現する特長を生かし、この賞を「文学の入り口」として、これまで本市が取り組んできた「ことばと文学のまち松山」の魅力をさらに広く発信したいと考えています。

これまで「ことばと文学のまち松山」を一緒に育ててくださった市民の皆さんや全国の文学ファンの皆さんに感謝するとともに、一人でも多くの方に応募いただき、「坊っちゃん文学賞」の魅力をより一層高めたいと考えています。温かいご支援とご協力をお願いします。

《審査員》幅広い分野から、ショートショートの魅力を最大限に引き出せる方々に審査をしていただきます。

## 審査員長 田丸 雅智 (たまる まさと)

1987 年、愛媛県生まれ。東京大学工学部卒、同大学院工学系研究科修了。現代ショートショートの旗手として執筆活動に加え、坊っちゃん文学賞などにおいて審査員長を務める。また2013 年から全国各地で創作講座を開催するなど幅広く活動している。ショートショートの書き方講座の内容は2020 年度から小学4年生の国語教科書(教育出版)に採用2021 年度からは中学1年生の国語教科書(教育出版)に小説作品が掲載。著書に『海色の壇』『おとぎカンパニー』など多数。メディア出演に「情熱大陸」「SWITCH インタビュー達人達」など多数。

田丸雅智 公式サイト:<https://masatomotamaru.com/>

## 審査員 大原 さやか (おおはら さやか)

声優、ナレーター。アニメ出演作としてFAIRYTAIL(エルザ・スカーレット)、「xxxHOLiC(杏原侑子)」、「美少女戦士セーラームーン(海王みちる・セーラーネプチューン)」、「Fate/zero(アイリスフィール)」、「ARIA」シリーズ(アリシア・フローレンス)、「カレイドスター(レイラ・ハミルトン)」、「夏雪ランデブー(島尾六花)」等多数。第7 回声優アワード助演女優賞受賞。

au(携帯電話)留守番電話サービス音声や、京王線・京急線など関東圏 割以上の私鉄ホームアナウンスを 20 年以上担当。自身のライフワークである朗読番組「月の音色 radio for your pleasure tomorrow～」はインターネットラジオステーション音泉にて好評配信中。最近では海外でのご縁も多く、海外イベント日本声優ゲスト出演や、日本台湾制作コラボによる人形演劇「Thunderbolt Fantasy 東離劍遊紀」にて長きに渡るシリーズで刑亥役を演じきった。

## 審査員 山戸 結希 (やまと ゆうき)

映画監督。2014 年、日本映画プロフェッショナル大賞新人監督賞を受賞2016 年、映画『溺れるナイフ』が 60 万人以上を動員し、20 代女性の監督作品において前例のない興行記録となる2019 年、TAMA 映画賞最優秀新進監督を受賞。2021 年、ドラマ『生きるとか死ぬとか父親とか』にて、初のテレビドラマのシリーズ構成、監督を務める。

RADWIMPS、乃木坂 46、Aimer、back number ら多数アーティストのミュージックビデオの映像監督を務め、大手企業の広告映像も手掛ける。最新作はNHK ドラマ『藤子・F・不二雄 SF 短編ドラマ』『燕は戻ってこない』などの演出を務める。



《アンバサダー》 SNSなどで全国に情報を発信し、坊っちゃん文学賞を PR していただきます。



## 白濱 亜嵐 (しらはま あらん)

1993年8月4日生まれ、愛媛県松山市出身。

2012年11月、GENERATIONS from EXILE TRIBE パフォーマーとしてメジャーデビュー。

2014年4月にEXILE 新パフォーマーに決定し、EXILE に加入。

GENERATIONS のリーダーも務め、EXILE/PKCZR と兼任しながら活動している。

2023年2月にはフィリピン観光大使に就任。

また、俳優としての主な出演作にはドラマ「シュガーレス」、GTO、「小説王」、「M 愛すべき人がいて」、映画「ひるなかの流星」、「コンフィデンスマンJP プリンセス編」、「10万の1」などにも出演。

さらにDJ(楽曲制作)としても活動し、マルチに活動の場を拓けている。

## 小学生特別賞を創設します

初めて、小学生特別賞を創設し、受賞者(1名)に図書カード1万円分を贈ります。

小学生の皆さんの応募の意欲を高め、文学に興味を持ってもらい、創造力や文章力の向上につなげるとともに、「ことばと文学のまち松山」をさらに広く発信したいと考えています。

## 受賞作品の感想を募集します

第22回の受賞作品の感想をホームページで募集し、応募者の中から抽選で、松山市ゆかりの品を贈ります。また、感想は、入賞作品の作者へお伝えします。これまでショートショート作品を読んだことがない方などに読むきっかけにもらい、受賞者には今後の創作活動で生かしてもらいたいと思います。

## ■株式会社パシフィックボイスによる「松山市 - 第20回 坊っちゃん文学賞」の運營業務受託の背景

株式会社パシフィックボイスは1999年より米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル&アジア実行委員会の事務局をつとめています。映画祭では2014年よりBook Shortsプロジェクトをスタート。短編小説の公募や創作を行い、ショートフィルムをはじめとした多彩なメディア、視点で再構築していく取り組みです。

2019年に松山市が「坊っちゃん文学賞」をリニューアルし2023年も引き続きショートショートの募集を展開するにあたり、運營業務委託先の募集を行った際、Book Shortsプロジェクトで培ってきたネットワークや経験を活用する形で株式会社パシフィックボイスが継続して立候補、選定を頂きました。

<参考>

ショートショートフィルムフェスティバル <https://shortshorts.org>

Book Shortsプロジェクト <https://bookshorts.jp/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パシフィックボイス 担当:田中 TEL:03-5474-8201 / FAX:03-5474-8202 / E-mail: [press@shortshorts.org](mailto:press@shortshorts.org)

画像は下記よりダウンロードいただけます

<https://drive.google.com/drive/folders/1xl75spbbsaDDNxdtcxok0gINISYLHTz6?usp=sharing>

## 第 22 回

# 坊っちゃん文学賞

## 第 22 回坊っちゃん文学賞 募集要項

ここはあなたの「文学の入り口」です。アイデアとそれを生かした印象的な結末のあるショートショートに応募をお待ちしています。

### ■募集作品

- ・ 4,000 字以内のショートショートを募集します。
- ・ テーマは問いません。あなたの想像力を作品に生かしてください。
- ・ 日本語で書かれ、未発表で筆者自身のオリジナルな作品に限ります。

### ■応募資格

- ・ 年齢、職業、国籍、プロ・アマは問いません。

### 応募方法・募集締切

- ・ インターネットでの応募: 令和 7 年 5 月 1 日(木) 8 時 30 分から 9 月 30 日(火) 23 時 59 分までに、公式サイトのお応募フォーム( [https:// bocchan-shortshort-matsuyama.jp](https://bocchan-shortshort-matsuyama.jp)) から応募してください。
- ・ 郵送での応募: 令和 7 年 5 月 1 日(木) から 9 月 30 日(火) (必着) までに、作品タイトル、著者名(公開可能な名前)、本名、生年月日、職業、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス(あれば)、賞を知った経緯、過去の坊っちゃん文学賞応募の有無を書いて、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-12-8-2F 株式会社パシフィックボイス「第 22 回坊っちゃん文学賞」係へ。応募原稿の体裁、書式、縦書き、横書きは自由です。

- 審査員: 田丸雅智、大原さやか、山戸結希 アンバサダー: 白濱亜嵐

### ■賞

大賞(1名): 賞金 50 万円 佳作(5名): 賞金 10 万円 小学生特別賞(1名): 図書カード 1 万円分

### ■発表・表彰式

- ・ 結果発表と表彰式は令和 8 年 1 月末から 2 月ごろを予定しています。
  - ・ 最終審査を通過した作品の作者へは直接通知します。
  - ・ 受賞者は表彰式にご出席ください(旅費は松山市が負担します)。
- 報道機関からの写真撮影やインタビューへのご協力をお願いします。
- ・ 大賞作品は雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載します。

### 注意事項

- ・ 1 人で何作品でも応募できます。
- ・ 学校・クラス単位での応募も可能です。
- ・ 応募作品の差し替え、修正は受け付けません。
- ・ 応募作品は返却しません。
- ・ 大賞、佳作、小学生特別賞受賞作品の著作権は松山市に帰属します。
- ・ 選考に関するお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。
- ・ これまでにWEB上へ掲載したことがある作品は未発表とはみなしません。
- ・ 作品に個人情報や実在の企業名等を使用することや、他の文学賞などへの二重投稿はご遠慮ください。
- ・ 小学生特別賞は平成 25 年(2013 年)4 月 2 日から平成 31 年(2019 年)4 月 1 日生まれの方を対象とします。

### ■お問い合わせ

松山市役所 文化・ことば課 電話 089-948-6634 ファクス 089-934-1913  
メール [bocchan@city.matsuyama.ehime.jp](mailto:bocchan@city.matsuyama.ehime.jp)



<参考資料>これまでの「坊っちゃん文学賞」

開催年	回	応募数	大賞・受賞者	大賞・作品名	備考
S63～ H元	第1回	1,386	月本 裕	『今日もクジラは元気だよ』 (改題:キャッチ)	
H2～3	第2回	740	中脇 初枝	『魚のように』	受賞時は高校3年生。その後、坪田譲治文学賞(2013年)や2016年本屋大賞3位など
H4～5	第3回	1,057	光山 明美	『土曜日の夜～ The Heart of Saturday Night』	
			巖谷 藍水	『ノスタルジア』	受賞時は高校3年生
H6～7	第4回	1,164	敷村 良子	『がんばっていきまっしょい』	1998年映画化、2005年テレビドラマ化、 2024年劇場アニメーション化
H8～9	第5回	1,037	大武 完	『映写機カカタ』	
H10～11	第6回	910	長屋 潤	『マジックドラゴン』	
H12～13	第7回	811	鬼丸 智彦	『富士川』	
			瀬尾 まいこ	『卵の緒』	『そして、ボタンは渡された』で2019年本屋大賞受賞
H14～15	第8回	1,008	浅井 柑	『三度目の正直』	受賞時は高校3年生
H16～17	第9回	1,067	大沼 紀子	『ゆくとし くとし』	
H18～19	第10回	1,048	甘木 つゆこ	『タロウの紺子』 (改題:はさんではさんで)	
			ふじくわ 綾	『右手左手、左手右手』	
H20～21	第11回	1,138	村崎 えん	『なれない』	
			真枝 志保	『桃と灰色』	
H22～23	第12回	1,057	真枝 志保	『桃と灰色』	
H24～25	第13回	1,060	桐 りんご	『キラキラハシル』	
H26～27	第14回	911	卯月 イツカ	『名もない花なんてものはない』	
H28～29	第15回	小説 854	鈴川 紗以	『ルカの麒麟』	15回の節目と子規・漱石生誕150年を記念し、 ショートショート部門を設置
		ショートショート 1,087	塚田 浩司	『オトナバー』	
R元	第16回	5,628	高野 ユタ	『羽釜』	『ひやくいろ節眼鏡』で株式会社ベルモニー presents ショートショートコンテスト最優秀賞 受賞(2020年)
R2	第17回	9,318	山猫軒従業員・ 黒猫	『ドリームダイバー』	
R3	第18回	6,952	椿あやか	『月光キネマ』	
R4	第19回	7,026	そるとばたあ	『ジャイアントキリン群』	
R5	第20回	8,014	望月 滋斗	『ライフ・イズ・ア・ムービー』	
R6	第21回	8,341	高山 幸大	『恩返し』	

○平成元年の市制100周年を記念して、昭和63年から、斬新な作風の青春文学小説の募集を開始。全国の多くの市が市制100周年を迎え、記念事業として文学賞を開催する中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けになった。

○審査員は椎名誠氏(審査員長)、早坂暁氏、景山民夫氏、中沢新一氏、高橋源一郎氏の5名で開始。平成10年に景山氏が死去、平成29年に早坂氏が死去。

○第15回までは2カ年事業として実施。初年度は募集、翌年度は審査・発表を行う。第16回からは、ショートショート部門の文学賞としてリニューアルし、毎年実施。

○第4回大賞の『がんばっていきまっしょい』のように映画化やテレビドラマ化、劇場アニメーション化される作品が生まれるなど、新人作家の登竜門になり、「ことばと文学のまち松山」を代表する取り組みの一つ。

○第7回大賞の瀬尾まいこ氏が『そして、ボタンは渡された』で2019年本屋大賞を受賞。

○第15回から第17回受賞のショートショート作品を収録した書籍『夢三十夜』が令和3年6月に出版。

## 【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2025 概要】

■映画祭代表: 別所 哲也

■開催期間:

4月24日(木)~6月30日(月)オンライン会場

※期間により配信プログラムが異なります。

5月28日(水)オープニングセレモニー

5月29日(木)~6月10日(火)東京会場

6月11日(水)アワードセレモニー

■上映会場: TAKANAWA GATEWAY CITY、表参道ヒルズスペースオー、赤坂インターシティコンファレンス、WITH HARAJUKUほか

※会場により、期間、プログラムが異なります。

■チケット: 上映会場、オンライン会場ともに有料、一部イベントは無料

販売開始は4月24日(木)14:00~

※オープニングイベントは同日18:00~

■一般からのお問い合わせ先 [info@shortshorts.org](mailto:info@shortshorts.org)

■公式サイト: <https://www.shortshorts.org/2025>

※2025年のラインナップは4月24日(木)に公開



【主催】ショートショートフィルムフェスティバル & アジア実行委員会

**SHORTSHORTS**  
FILM FESTIVAL & ASIA

米国俳優協会(SAG)の会員でもある俳優別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの思いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立2001年には名称を「ショートショートフィルムフェスティバル(SSFF)」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、同年に「ショートショートフィルムフェスティバルアジア(SSFF ASIA 共催: 東京都)」が誕生し、現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカスワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバルin ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション部門(インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパンの各カテゴリー)およびノンフィクション部門の各優秀賞作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】<https://www.shortshorts.org>